

患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年3月18日

産科・婦人科

産科・婦人科では、流産・中絶・分娩・胞状奇胎後に血流豊富な子宮超音波像を認めた症例、妊娠組織遺残例に対する管理法に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2014年1月1日～2025年9月30日の間に流産・中絶・分娩・胞状奇胎後の血流を伴う妊娠組織遺残と診断され、治療を受けた方

1. 研究課題名

「流産・中絶・分娩・胞状奇胎後に血流豊富な子宮超音波像を認めた症例、妊娠組織遺残例に対する管理法の後方視的検討」

2. 研究期間

研究実施許可後～2028年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

流産・中絶・分娩・胞状奇胎の後に、血流が豊富な妊娠組織の遺残（妊娠組織遺残をRPOCといいます）がみられることがあります。時に輸血を必要とするような大量出血を来すことがあります。治療方法は確立されたものはありません。一般的には子宮動脈塞栓術などの治療がおこなわれることもあります。当院では、必要な時には子宮動脈塞栓術や輸血をおこなえる体制もありますが、手術やホルモン療法を組み合わせ、なるべく侵襲性の低い治療を行っております。2014年1月1日から2025年9月30日の間に当院でRPOCの治療をおこなった患者さまについて、2025年12月31日までの診療情報を調べさせていただきます。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている身長、体重、年齢、生年月、合併症、既往歴、現病歴、妊娠分娩歴、体外受精であればその内容、前治療、血圧・脈拍数、血液検査（血算・hCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）値）、超音波検査などの画像所見、ホルモン療法をおこなっていればその内容、子宮内容除去術の手術記録、輸血、バルーン止血法の施行、動脈塞栓術施行の有無、手術症例であれば病理組織検査の結果など

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 助教 中村名律子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 助教 中村 名律子

043 (222) 7171 内線 72661